

カーボン紙で刷るメリット

- ・用意・片付けが楽でありインクを使わないので手や制服が汚れない。
- ・インクをつけ過ぎて刷りが失敗するようなことがない。
- ・貼り付けた素材にすき間があっても刷りに影響しない。
- ・版にスプレーをかける必要がないし油も使わないので臭いが教室に充満しない。
- ・刷毛で紙の片面に水をぬる必要がない（ぬってもぬらなくてもほとんど刷りに影響しない）
- ・一斉に刷りを行う時間を設ける必要がない。刷りは短時間で済む。

カーボン紙で刷るデメリット

- ・インクにくらべて色に深みが無いと思う。うまく刷ればインクにはかなわない。
- ・自由に色を作る事が出来ない（セピア色のカーボン紙が欲しいが売っていない）
- ・コラグラフの刷りとしてはカーボン紙は1回しか使えない（2度使うとゴーストが入る）
- ・原版の大きさはカーボン紙のサイズ以下。カーボン紙を2枚広げて使えば原版は倍の大きさ出来るがうまくやらないとカーボン紙とカーボン紙の境がはっきり出てしまう。

過去の経緯と注意点

- ①インクを想定してつくらせた版（インク仕様）をインクで刷る。
- ②カーボン紙を想定してつくらせた版（カーボン紙仕様）をカーボン紙で刷る。
- ③インク仕様の版をインクで刷ったあとカーボン紙でも刷ってみる。
- ④カーボン紙仕様の版をカーボン紙で刷った後、一部の生徒にインクで刷らせてみる。

①から④を過去にやってきたがここ3年くらいは②しか行っておらず完全にカーボン紙にシフトしてしまった。③と④は両刀使いであり、実験的興味と授業の時間調整の意味で行った。私の経験ではインク仕様で作った版はインクで刷った方が確率的にはうまく刷れるがカーボン紙で刷った方がうまく行く場合もある。逆も同様。〔展示パネル参照〕 また、例えば上記5行目の項目で、指導してもすき間を完全に埋めることが出来ない生徒が多数いるような場合、インクで刷ると失敗するのでカーボン紙で刷ることを薦める。

原版作りの指導・私の場合

現在の勤務校の実情に合わせ、指定した方法で原版を作らせている（明暗の表現が重要）
明るい部分2種類、暗い部分2種類、中間の明るさ2種類。最低6種類あればなんとかなるが、対応出来ない場合（となりどおしの種類がかぶる場合等）は7種類目、8種類目と用意。具体的にカーボン紙仕様の原版をどうやって作ったらよいかはここでは記さないし、正解があるわけでもない。一例として展示パネルの原版と作品を見比べて欲しい。

追記 展示した作品に背景が無いのは（輪郭線に沿って周りを切り抜いている）、その方が見栄えが良く技術的に楽であるため。もちろん背景を加えても特に問題なし。自画像をモチーフにしたり、抽象画をコラグラフで行ったこともあったがその時は背景を含めて版を作らせた。